

勿凝学問 241

ニュースが常識になった世界
メディアによる報道とポピュリズム政治の関係

2009年8月8日
慶應義塾大学 商学部
教授 権丈善一

「なんで、先生の言うポピュリズム¹がこんなに蔓延してしまうんですか？」とメディア人。

「ある世界で、普通に起こっている97%のことはニュースになるかあ？」

「??？」

「3%くらいの珍しい出来事しか、ニュースにならないよな」

「はあ、はい」

「その3%の珍しいことしかメディアは報道せず、国民の情報源はそれしかないとしたらどうなる？ 3%のニュースしか知らない国民が100%になってしまう。

ニュースになるような事件しか知らない国民、つまり97%の正常な世界を知らない人たちのレベルに合わせた方が、政治家は票を多く獲得できる。それだけのことだろう」

「ニュースが常識となった世界」という言葉は、僕が、以前から政治情勢を評する際によくつかう言葉である。

年金は日本の社会経済状況の分相応でしかありませんが、まあ、破綻などしていませんよお、官僚は、日夜相当まじめに働いてますよおなど、ニュースになるわけがない。たわいのない日常を放送して許されるのはサザエさんくらいだろう。

ところで、ゼミの風呂部には風呂部卒業生の掲示板がある。そこで、昨晚から次のやりとりがあったのが、この文章の執筆動機となったわけである。

下記、PやLやMがどういう仕事をしているのかは、ご想像にお任せします、はい。

P 「世の中って難しいなあ」という感じでしょうか（笑）

L 意味深ですな。後々詳しく聞かせてさ。

P ざっくり言うと、

¹ 僕によるポピュリズムの定義は「正しい政治行為とは、合理的無知な投票者に正しいことを説得することによって権力の地位をねらうことであるにもかかわらず、ポピュリズムというのは、合理的無知な投票者に正しいことを説得する努力を放棄して（あるいは無知や誤解の度合いを増幅させて）、無知なままの投票者に票田を求めて権力を追求する政治行為である」（勿凝学問 233 [世襲制限に対するポピュリズム批判のピント外れ](#)より）。

現場の職員も一生懸命仕事を探している人たちのために頑張っているのに、世間的に評判が良くないのが悔しいなあ、という感じです。

実際には悪いことする人もいるでしょうが、それはごくごくごく一部であって、ほとんどの人が求職者のためになりたいというアツい気持ちで働いているのです…先生から耳にたこができるほど聞いていることですが、「世間」の皆さんにわかっていただくというのはほんとにムズカシイことだなあ、と。

L なるほど。

現場にいと肌で感じるところもあるだろうしなあ。

そんな時は飲むに限りますね。東京に帰ってきたらシャラっと一杯いきましょう。

M 仕事がないのが、公のせいで、公務員はその公の一部、みたいな思考回路があるのかなあ？

家族とか地域とか、個人のつながりが希薄になって、

気持ちを吐く相手がいなくなると、

犠牲になるのは公務員。警察官、市役所、、、、そんな。。

官僚や公務員については、みんなはニュースしか知らん。メディアの性格上、国民がそういう状況になるのは分からないではないが、研究者や評論家までも、ニュースレベルの情報しかもっていないのは、この国の不幸だな。

ほんじゃ、オレは今から、風呂いってくる——お昼の2時なのに？